

ボブスレー・リュージュパーク（スパイラル）の活用等について

1 ナショナルトレーニングセンター（NTC）競技別強化拠点について

(1) NTC事業について

- ・東京西が丘の味の素ナショナルトレーニングセンターのほか、冬季競技、海洋水辺系競技、屋外系競技などについては、全国 28 箇所の施設が競技別強化拠点に指定されている。（長野市では、スピードスケートでエムウェーブ、そり競技でスパイラルの指定あり）
- ・JOC加盟競技団体の国際競技力向上に資するトレーニング環境を提供する。

(2) スパイラルの指定の履歴

- ・初 回 平成 19 年 5 月 18 日～3 年間（バンクーバー五輪まで）
- ・2 回目 平成 22 年 6 月 1 日～4 年間（ソチ五輪まで）
- ・3 回目 平成 26 年 8 月 26 日～4 年間（平昌五輪まで）

(3) NTC事業内容

- ・トップアスリートの利用の環境整備、トレーニング機器等の導入
- ・スポーツ医、科学、情報スタッフの配置、マネジメントスタッフの配置
- ・関係機関との調整、強化対象選手の利用調整、情報の収集発信

2 大会開催（平成 27 年度）

（種別 B：ボブスレー L：リュージュ S：スケルトン）

国際大会

大会期間	種 別	大 会 名	参加者数
27. 12. 24～27	L	第 1 回 アジアリュージュ選手権大会	32

国内大会

大会期間	種 別	大 会 名	参加者数
27. 9. 20	S	2015 全日本プッシュスケルトン選手権大会	32
27. 9. 20	B	2015 全日本プッシュボブスレー選手権大会	23
27. 12. 11～12	S	2015/2016 全日本スケルトン選手権大会（予選）	35
27. 12. 18～20	B	2015/2016 全日本ボブスレー選手権大会	50
27. 12. 24～26	L	第 49 回 全日本リュージュ選手権大会	13
27. 12. 24～26	L	第 23 回 JOCジュニアオリンピックカップ競技会	7
27. 12. 25～27	S	2015/2016 全日本スケルトン選手権大会（本選）	35
28. 1. 23～24	B・L・S	第 7 回 J B L S F チャレンジカップ大会	9
28. 1. 23～24	B・S	第 23 回 JOCジュニアオリンピックカップ競技会	19

3 日本選手の国際大会での主な成績（2015～2016 シーズン）

（1）ボブスレー競技

押切麻李亜：IBSF ランキング 30 位、EC 最高成績 7 位
本間 南：IBSF ランキング 35 位、EC 最高成績 9 位
浅野晃佑：IBSF ランキング 82 位、EC 最高成績 27 位
黒岩俊喜：IBSF ランキング 85 位、EC 最高成績 35 位

※ECはヨーロッパカップの略

（2）スケルトン競技（主要な選手）

高橋選手：IBSF ランキング 21 位、世界選手権 20 位、WC 最高成績 13 位
笹原選手：IBSF ランキング 36 位、ICC 最高成績 7 位
宮島選手：IBSF ランキング 55 位、NAC 最高成績 2 位、世界 JR 選手権 16 位
小口選手：IBSF ランキング 22 位、世界選手権 22 位、WC 最高成績 13 位
小室選手：IBSF ランキング 41 位、ICC 最高成績 12 位

※ICC はインターコンチネンタルカップの略

※NAC はノースアメリカカップの略

（3）リュージュ競技

金山英勢：WC最高成績22位、世界選手権32位（2本目進出できず）

4 そり体験事業

（1）市内小中学校を対象としたそり体験教室

（市事業としてバス代の一部を補助）

- ・平成 28 年 1 月 浅川小学校 3 年生 2 クラス 53 名
- ・平成 28 年 1 月 鍋屋田小学校 3 年生 2 クラス 38 名

5 閣議了解（平成元年 6 月 6 日）

オリンピック冬季競技大会の開催は、国際親善、スポーツの振興等に大きな意義を有するものであり、平成 10 年（1998 年）第 18 回オリンピック冬季競技大会を長野市が招請することを了承する。

なお、政府としては、現在、財政再建が引き続き緊要な課題であることにかんがみ、簡素を旨とし、別紙に掲げる方針により対処するものとする。

<別紙>

1 競技施設については既存施設の改善・活用を図り、施設の新設に当たっては適正な規模の確保にとどめるものとし、主要施設の整備に要する経費に占める国の負担の割合は2分の1以内とすること。

2 新設する施設の将来にわたる管理・運営については地元の責任と負担を主体として行われるものとする。

3～5 省略